

成功する人は本を読む

私を動かした
この一冊

BOOK

上司と部下。その「心理メカニズム」に気づかされる



蟹江 脩礼氏

(株)すずや
代表取締役

1975年生まれ。東京都出身。23歳の時に、神奈川県溝の口に1号店となる『すずや』本店を出店する。神奈川県・川崎市内を中心にドミナント展開。人情味があり地元で愛される店づくりを目指し、現在、地域に密着した居酒屋を4店舗経営する。特に「地産地消」の取り組みに注力し、「売り」である地場野菜は市内の契約農家まで毎日足を運んで自身で仕入れを行なうなど、「生産者→飲食店→消費者」と直結した安心感のある食材の提供に努めている。地元でファンを掴みながら、長年商売を続ける「居酒屋のおやじ」を永遠のテーマに日々奮闘中。

「あなたは何様なの？」
現代社会での上司と部下の
関係性の本音で、部下に対して、
あるいは上司に対して、
口には出さなくてもそう言い
たくなる時ってありません
か？逆に自分が接した相手か
らそう思われているのではな
いかと、不安に思うこともあ
るのではないのでしょうか。
本書は上司と部下との関係
性について、両者の立場から
聞き出したエピソードやデー
タなどがわかりやすく解説さ
れています。思わず「あるあ
る、こういう事!!」なんて深
くうなずくこと、また人材育
成において「現代社会の事情
はこうなんだ」と納得させら
れることが書かれています。
「そんなの時代遅れだよ…」
と思われるかもしれませんが
が、私が社会人になりたての

頃は「上司の言うことは絶対
!!」でした。そうしなければ
仕事を与えてもらえないし、
相手にもされなかった。職場
の中の雑用的な作業は部下の
自分がやるのは当然のこと。
少なくともその行動には、仕
事を教えてもらおう上司への敬
意があつたと思います。
とは言え、その時代のやり
方や考え方を、現状の部下た
ちに押し付けようなどとしま
ったく思っています。しか
し、最近の部下の事情はだ
ぶ違うようです。この解釈は
あくまでも本書の一例です
が、上司への敬意よりも、
自分の立場や周囲からの見ら
れ方を優先するそうです。
自分がまだ仕事があまくで
きなかったり、自分の能力に
自信が持てなかったりする場
合に、その不安をかき消そう

と、根拠のない自信”を持ち
「誇大妄想”をして自己防衛
をする。不安の裏返しの状態
として自分のことは棚上げ
し、「評論家的立ち位置」で
上から目線のコメントをす
る。何事にも一歩引いた立場
でいけば、たとえ失敗をした
時でも言い訳ができる。そんな
傾向があるようです。
繰り返しになりますが、こ
れは本書による一般論。上司
として重要なのは、きちんと
部下と向き合い信頼関係を築
き上げること。そしてお互い
を思いやる気持ち、感謝し合
える関係が大事だと思いま
す。ただ、そうはいっても一
筋縄ではいかないのが上司と
部下の関係で、その背景には
それぞれの「心理メカニズム」
があるのだと改めて感じさせ
られた一冊でした。



『「上から目線」の扱い方』
榎本博明/著
アスコム 935円

「仕事ができないのに態度が大きい部下」、「実績がないのにエラそうな上司」…等々。身近なエピソードを紹介しながら、「上から目線」の「何様」上司&部下の対処法を解説。

※この連載では、読書家の経営者やシェフの方が、毎月リレー形式で、感銘を受けた本、商売や経営のあり方、生き方に影響を与えた本を紹介しします。